

留学先大学： ピッツバーグ大学
 留学先での所属学部・研究科： 歴史学部
 留学先での在籍身分： 大学院生
 留学期間： 2012年8月～ 2012年12月
 神戸大学での所属学部・研究科： 国際文化学研究科
 学年（出発時）： 修士2年
 本報告書記入日： 2012年11月7日

出発前

どのように情報を集めましたか。参考になる本やホームページがあれば、記入してください。

ピッツバーグ便利帳（ホームページ）

住居について

- ・住居のタイプ：大学寮 アパート ホストファミリー その他（具体的に）_____
- 住居（寮、アパート）の名前：Eight Allegheny Center
- ・部屋の種類：一人部屋 二人部屋 その他（具体的に）_____
- ・ルームメイト：現地学生 留学生（出身国：_____） その他（具体的に）_____
- ・どのように探しましたか。：大学の斡旋 自分で探した その他（具体的に）_____
- ・大学までの通学時間・手段：約40分、徒歩、バス
- ・住居の周りの環境はどうか。：

安全

- ・毎日の食事はどうしていますか。：

自炊、外食

- ・住居は渡航前に、または渡航後すぐにみつかりましたか。トラブルはありませんでしたか。：

渡航前に見つかった。

大学の授業について

1. 履修登録について

- ・履修登録の時期：出発前 到着後
- ・履修登録の方法：On-line International Office等の仲介 その他（具体的に）_____
- ・登録時に留学生として優先・配慮されることはありましたか。：無し 有り
- ・優先・配慮があった場合、具体的に教えてください。

- ・希望通りの授業が履修できましたか。：はい いいえ
- ・希望通りの授業が履修できなかった場合、その理由を教えてください。

2. 現在までに、履修している授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 /週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等についてアドバイスも 含めて教えてください。
1	the United States 1865-present	Robert Ruck	3	3	160	テストなし。レポートが3つ。予習は本 をあらかじめ読んでくる。
2	the United States until 1865	Van Beck Hall	3	3	80	テストなし。レポートが3つ。予習は本 をあらかじめ読んでくる。
3	American Workers in 20th Century	Richard Oestreicher	2	3	40	テストなし。レポートが3つ、ディベートが 2回。予習は本をあらかじめ読んでくる。
4	History of Pittsburgh	Edward Muller	2	3	40	テスト2回（論述）、レポートが3つ。 予習は本をあらかじめ読んでくる。
5						
6						
7						
8						
9						
10						

3. 授業（カリキュラム等）について クラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

クラスのサイズは上記の人数から大体わかると思う。どのクラスも学生は積極的に授業に取り組んでいる。教授も授業のしかたがとてもうまい、説明もしっかり話し全体が分かりやすい。

一週間のスケジュール（授業時間、課外活動等、毎日の生活を記入してください。）

	月	火	水	木	金	土	日
8:00		授業		授業			
9:00]授業		
10:00		授業		授業]授業		
11:00		図書館で		図書館で	図書館で		
12:00]授業	勉強]授業	勉強	勉強	基本的には自宅で過ごすか、友人と過ごす。	自宅で過ごすか、友人と過ごす、あるいは図書館で勉強
13:00]昼食	昼食]昼食	昼食	昼食		
14:00]図書館で]図書館で]図書館で]図書館で	図書館で		
15:00	勉強	勉強（午後6～7時ごろまで）	勉強	勉強（午後6～7時ごろまで）	勉強（午後5時ごろまで）		
16:00]授業]授業		帰宅		
17:00		夕食			or		
18:00]図書館で]図書館で		友人と過ごす		
19:00	勉強		勉強				
20:00		クラブ活動（別のクラブ）					
21:00							
22:00							

現在までの感想 自由に記入してください。(800字～)

ピッツバーグ大学はキャンパスがとても大きく、自然豊かでとても勉強しやすい環境である。人は比較的親切でわからないことがあるときに質問すると必ず教えてくれる。さて、この大学にきて気づいたことがいくつかある。それはアメリカの学生の授業に対する意欲の高さ、授業の内容の濃さ、教育の質だ。

当たり前といえば当たり前なのだが、ここの学生は常に勉強をしている。授業のやり方はもちろん教授によって違うのだが、基本的には日本と同じ講義形式。教授が一方的に説明をする形式である。日本だと本当に教授が一方的に説明をして一時間終わるのだが、ここの学生は疑問に思うことがあればすぐに手を挙げて質問をする。ある学生は教授の説明したことに関してその学生自身の体験談を話してくれ、授業の内容の理解がより深まることもあった。ここの学生の授業に対する意識の高さは、就職活動時に個人の成績GPAが重視されることが大いに関係しているように思える。日本で就職活動をする場合は卒業をしさえすれば内容は特に見られなかった。この違いはかなり授業に対する意欲に影響しているのではないだろうか。それゆえに彼らは授業では毎回の内容をしっかりと学んで帰ろうとするし、寝る間も惜しんで図書館にこもって勉学に励んでいるのだろう。

私がアメリカの大学で授業を受けていてもう一つ気がついたことは授業の内容の濃さである。日本の大学の授業の内容が濃くない、と言っているのではなく、こちらの授業では1つの科目につき3～4冊分の本の内容を網羅する。もちろん予習として読んでくるものは多く、これは任意なのだが読まないと実際にレポートを書く時に苦しくなる。同じ授業が週に2、3回あるのではほぼ毎日最低50ページは予習として本を読んでいると思う。私のとっているHistory of Pittsburghではたまに100ページ以上を予習として読んでこなさなければならず、別の授業の予習と合わせればなかなかの量をこなさなければならない。そして、授業では教授がその本に基づいて話をする。授業の評価方法は基本的には数回あるレポートで決められる。日本ではレポートを書いて提出、レポート自体は戻ってこないが成績が後々わかるという形式を経験したが、ここピッツバーグ大学ではレポートは成績、教授のコメントと一緒に戻ってくる。ここの教授はどの教授もレポートの論理性、オリジナリティ、内容をしっかりと評価しているように思える。教授がレポートの後ろに書いてくれるコメントは今後のレポートへの改善点をしっかりと明記してくれ、これは文章を書くのに非常に役に立っている。これは論理性を鍛える良い訓練になっている。これらの経験は将来非常に役に立つ経験である。

アメリカの大学では常にいい刺激を与えられる。彼らの勉強に対する高い意欲そして授業の内容の濃さは私に学生としての醍醐味を余すところなく教えてくれる。ここでの滞在は2か月をきったが最後まで多くを学んで帰りたいと思う。